

## 小学校第 2 学年 国語科学習指導案

日 時 平成 28 年 6 月 17 日 (金) 2 校時

指導者 教育センター所員 古川 雅

単元名 「お気に入りの道具のひみつカード」をつくって、家の人にしようかいしよう

教材名 「ふろしきは、どんな ぬの」(東京書籍 2 年上 pp. 76-82)

## 1 単元について

## (1) 教材観

本教材は、「読むこと」「書くこと」の複合単元であり、第 2 学年の 4 つの説明文のうちの 2 番目に位置付けられている教材である。1 番目の「たんぼぼ」は「事柄や時間の順序に気を付けて読む」教材であるのに比べて、本教材は「二つの文章の、説明の仕方の違いを考えながら読む」になっている。【カードに書かれていた文しょう】「べんりなふろしき」と【本にのっていた文しょう】「まほうのぬの『ふろしき』」の 2 つの文章を「文の数」「一つの文のながさ」などを比べながら、それぞれの書き方の違いやよさを見付けていく。そして、見付けた違いやよさを基に「まほうの かばん ランドセル」を【カードに書かれていた文しょう】の形に書き換えていく。「べんりなふろしき」は箇条書きで書かれた文章であり、「まほうのぬの『ふろしき』」は「はじめ」「なか」「おわり」で構成され「また」「さらに」「このように」などの順序を表す接続詞が使われている文章である。2 つの文章を比べることでお互いの文章の違いに気付き、それらのよさについて考えていくことで、目的や意図に応じた表現の工夫や効果を読み取る力を、段階的に身に付けることができる。また、自らが書くことを通して、多様なテキストを関係付けて読む力を身に付けることができる。

## (2) 児童観

本学級の児童は、国語科の授業において話をしたり、書いたりすることを楽しんで学習に参加をしており、2 年生の 5 月に「たんぼぼ」で時を表す言葉と順序に気を付けて内容の大体を読みとる学習をしている。また、授業で、隣同士で話合いをした経験はあるが、3 人組での話合いは経験をしていない。また、単元の学習課題を最初に示されたり、それを基に単元計画を立てたりした授業の経験は少ない。

## (3) 指導観

本単元では、次のことを重点的に指導していく。

第 1 次では、単元全体の学習課題を「2 つの文しょうの たいせつなところを 見つけて 『お気に入りの道具のひみつカード』をつくろう」とし、単元のゴールを「お気に入りの道具のひみつカード」を家の人にしようかいすることを明確に示すことで、児童に単元の見通しをもたせるとともに、学習への意欲をもたせたい。また、これまで自分たちで、学習課題の設定をしたり単元計画を立てたりなど、あまり経験のない活動を行うので、指導者側で準備をしておきながら児童には「自ら考えた学習課題」「自ら考えた単元計画」という意識をもたせて意欲的に学習に取り組みさせていきたい。さらに、児童にとって身近とはいえない「ふろしき」について、実際に触れることにより、書いてあることを確認させ、大まかな内容を捉えさせるようにする。グループでの話合いの際には、単元を通して 3 人組を取り入れる。3 人は、少数派、多数派が生まれる最小限の人数であり、話合いを客観的に聞くことができる人数でもある。これまでに無いやり方で話合いを行わせることで、児童に話し合うことの愉しさを味わわせ、これからの話合い活動につなげていきたい。

第2次では、「道具のひみつカード」をつくらせるに当たって、自らの表現に生かすために、教科書の文章「べんりなふろしき」「まほうのぬの『ふろしき』」を読み比べさせ、それぞれの文章の違いやよさを考えさせていく。また、「お気に入りの道具のひみつカード」をつくるのに必要な資料「道具のひみつブック」に書き込ませることで、第3次の学習にスムーズにつなげていく。そして、第2次の後半では、これまで学習してきたことを生かし「道具のひみつブック」や自分で選んだ図鑑などを基に「お気に入りの道具のひみつカード」をつくらせていく。

第3次では、自分たちがつくった「お気に入りの道具のひみつカード」を紹介し合い、感想を伝え合わせる。また、単元全体を振り返らせ、「自分がこの学習で、(分かったこと)できるようになったことは何か」「この学習で、自分にどんな力が付いたのか」などを、自分自身の言葉で振り返らせていくことで身に付いた力を実感させ、次の学習につなげていく。

## 2 単元の目標

大事な言葉に線を引いたり抜き出したりしながら、2つの文章の説明の違いやよさに気付き、内容を読み取ることができる。  
(読むこと イ・エ)

2つの文章の説明の違いやよさを生かし、大事な言葉を取り出しながら文章を書くことができる。  
(書くこと ウ・オ)

## 3 単元の評価規準

| 国語への<br>関心・意欲・態度  | 読む能力   | 書く能力  | 言語についての<br>知識・理解・技能   |
|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>説明の違いに興味をもって、進んでいろいろな形の文章を読もうとしている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>2つの文章の説明の仕方の違いを考えながら読み、それぞれに書かれている内容を正しく読み取っている。(イ)</li> <li>2つの文章の中の大事な言葉に、線を引いたり書き抜いたりしている。(エ)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>紹介したい道具を選び、つながりのある文章で「お気に入りの道具のひみつカード」を書いている。(ウ)</li> <li>友達が書いた「お気に入りの道具のひみつカード」を読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合っている。(オ)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いて、2つの文章を読んだり文章を書いたりしている。<br/>(イ(ウ))</li> </ul> |

## 4 指導と評価の計画(全10時間)

| 次 | 時                 | 学習活動   | 指導上の留意点  | 評価規準と評価方法   |
|---|-------------------|--|--|---|
| 1 | 1<br>2            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文を音読し内容をおおまかに捉える。</li> <li>○実際にふろしきに触れながら、グループで感想を交流しふろしきのよさを実感し内容を捉える。</li> <li>○2つの文章を比べて読むという学習課題をつかみ、おおまかな学習の計画を立てる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「2つの文しょうをくらべて『お気に入りの道具のひみつカード』を書こう」という単元の学習課題を設定し、単元の見通しと意欲をもたせる。</li> <li>・教師が作った「お気に入りの道具のひみつカード」を見せることで、完成のイメージをもたせ単元を通しての意欲をもたせる。</li> <li>・単元の最後はお家の人に「お気に入りの道具のひみつカード」を紹介する計画を立てて、単元の意欲をもたせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>【関】音節と文字との関係に注意しながら、平仮名や片仮名、漢字を声に出して読もうとしている。<br/>[学習活動の観察]</li> <li>【読】文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合っている。<br/>[ワークシートの記述]<br/>[振り返りカード]</li> </ul> |
| 2 | 3<br>4<br>5<br>本時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○2つの文章を読み比べ、同じところや違うところを見付ける。</li> <li>○【本にのっていた文しょう】「まほうのぬの『ふろしき』」の文章構成を知る。</li> <li>○2つの文章を読み比べ、それぞれの文のよさを見付ける。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの文章を読み比べて、同じことが書いてところにより色分けして、線を引かせることにより視覚化させ、違いを探させる。</li> <li>・「まほうのぬの『ふろしき』」の文章の「はじめ」「なか」「おわり」の構成や、「また」「さらに」「このように」などの接続語の役割にも気付かせる。</li> <li>・文字の数、一文の長さ、書かれていることなど比べる視点を与える。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>【関】知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、事物の仕組みなどについて説明した本や文章を選んで読もうとしている。<br/>[学習活動の観察]</li> <li>【読】時間的な順序や事柄の順序、冒頭でおおよそを述べてから具体的な内容を説明するとい</li> </ul>              |

|             |         |   |   |   |
|-------------|---------|---|---|---|
|             |         | <p>○学習したことを基に「道具のひみつブック」を書く。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの文章の同じところや違うところを見付けることで、2つの文章の構成の違いに気付かせ、「道具のひみつブック」づくりにつなげる。</li> <li>・カードの文章のよさを考えさせながら、それぞれの文章によさがあることに気付かせ、状況によって使われ方が違うことに気付かせる。</li> <li>・授業の終盤は「道具のひみつブック」を書かせることで、本時の学習内容を確認させるとともに「道具のひみつカード」につなげる。</li> </ul>                     | <p>った文章の構成上の順序などに気を付けながら、文章を読んでいる。</p> <p>[ワークシートの記述]<br/>[振り返りカード]</p> <p>【読】 2つの文章を読み比べて、それぞれの文章のよさを見付けている。</p> <p>[ワークシートの記述]<br/>[振り返りカード]</p> <p>【書】 つながりのある文章で「道具のひみつブック」を書いている。</p> <p>[ワークシートの記述]</p> <p>【知・理・技】 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いて、2つの文章を読んだり文章を書いたりしている。</p> <p>[ワークシートの記述]</p>  |
| 6<br>7<br>8 |         | <p>○学習したことを基に「道具のひみつブック」を書く。</p> <p>○「道具のひみつブック」や好きな本の中から、家の人に紹介したいひみつを、「お気に入りの道具のひみつカード」にする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「道具のひみつブック」を完成させていない児童のために、「道具のひみつブック」を書く時間を確保する。</li> <li>・「道具のひみつブック」や自分で選んだ図鑑から、紹介したい道具を選んで、「お気に入りの道具のひみつカード」に書き換えさせる。</li> <li>・紹介する相手である家の人を意識させて、分かりやすい表現で書かせる。</li> <li>・うまく書けない児童には、「道具のひみつブック」ですでに書いているものをカードにするように声を掛ける。</li> </ul> | <p>【関】 知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、事物の仕組みなどについて説明した本や文章を選んで読もうとしている。</p> <p>[学習活動の観察]</p> <p>【読】 自分の知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、事物の仕組みがなぜそうなっているのかを文章から見付けながら読んでいる。</p> <p>[振り返りカード]</p> <p>【読】 文章の中の大事な言葉や文を書き抜いている。</p> <p>[ワークシートの記述]<br/>[振り返りカード]</p> <p>【書】 紹介したい道具を選び、つながりのある文章で「お気に入りの道具のひみつカード」を書いている。</p> <p>[ワークシートの記述]</p> <p>【知・理・技】 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いて、2つの文章を読んだり文章を書いたりしている。</p> <p>[ワークシートの記述]</p> |
| 3           | 9<br>10 | <p>○「お気に入りの道具のひみつカード」を紹介し合い、感想を伝え合う。</p> <p>○単元全体を振り返り、身に付いた力を確認する。</p>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の書いた作品の良い点について認め合う時間にする。</li> <li>・ワークシートの評価項目を基に自己評価させる。</li> <li>・これまでの学習を振り返り、この学習で分かったこと、この学習で自分にどんな力が付いたかを考えさせる。</li> </ul>  | <p>【関】 知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、事物の仕組みなどについて説明した本や文章を選んで読もうとしている。</p> <p>[学習活動の観察]</p> <p>【書】 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合っている。</p> <p>[学習活動の観察]<br/>[ワークシートの記述]</p>  |
| 課外          |         | <p>○家の人に「お気に入りの道具のひみつカード」を紹介する。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の人には、学習の趣旨を通信などで説明し、児童の書いたカードに対して学習課題に沿った前向きなコメントを書いてもらうようにする。</li> </ul>  |   |

## 5 本時の計画(5/10)

## (1) 目標

○2つの文章を読み比べて、それぞれの文章のよさを見付けることができる。 (読むこと イ)

## (2) 指導の視点

単元を通して言語活動を位置付ける「読むこと」の授業において、本時は「読むこと」と「書くこと」をつなげる授業となる。児童は単元のゴールを見据えながら、2つの文章のそれぞれのよさを読み取り、「道具のひみつブック」に書き込んでいく。これらの本時の活動が、単元後半の「お気に入りの道具のひみつカード」づくりに生かしていけることを実感することで、目的意識が更に明確になり、読み取りに向かう意欲や交流の必要性が高まっていくと考える。

## (3) 展開

| 学習活動  | 指導上の留意点及び支援 (○) と評価 (◆)  |
|---|--|
| 1 前時までの振り返りを読んで、前時までの学習を想起し、本時の課題を考える。  | ○前時の学習から、二つの文章を比べて見付けた違いを振り返り、本時とのつながりをもたせる。<br>○本時の課題を考える際には、「学しゅうぜんたいのかだい」に目を向けさせ、現在の学習の位置を確認させる。  |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             ㊦ 2つの 文しょうを くらべて、カードの 書きかたの よさを さがそう           </div> |  |
| 2 グループで2つの文章を比べながら、違いを探す。<br><br>① ひとりで考える<br>② グループ(3人組)で考える。<br>③ みんなで考え、まとめる。  | ○2つの文章をそれぞれ音読させることで、これまでの学習で線を引きだしたところを確認し、課題への見通しをもたせる。<br>○出された意見は、なぜそのように考えたのかを本文を基にして、再び全体で考えさせる。<br>○「みじかい」「すくない」などの意見は、それぞれの文章にもどし、ただ「みじかい」「すくない」のではなく、文章には大事なことはきちんと書いてあることを確認させる。<br>○「まほうのぬの『ふろしき』」の文章のよさも問うことで、それぞれの文章によさがあることを感じさせるようにする。<br>○具体的な事例を取り上げながら、それぞれの文章の使いどきについて確認させる。<br>○まとめたよさは、「道具のひみつブック」「お気に入りの道具のひみつカード」の書き方として確認させる。 |
| 3 今日の学習を生かしながら「道具のひみつブック」を書く。   | ○本時の学習を基に「道具のひみつブック」を書くことで、本時の学習で見付けたそれぞれの文章のよさを確認させる。   |
| 4 本時の振り返りをする。   | ○ポイントを「この学習で、分かったこと(知ったこと)は何か」としてそれぞれの文章のよさを振り返らせる。(◆)<br>○本時の学習の課題が、今日の活動と合っていたかを考えさせることで、本時の活動全体を振り返らせる。<br>○本時の振り返りを、本時の学習の課題を基に考えさせる。<br>○次時からは、「道具のひみつブック」に書き込みながら、家の人に紹介する「お気に入りの道具のひみつカード」を作っていくことを知らせ、学習への意欲と見通しをもたせる。   |

## (4) 評価

## ◆評価規準【読イ】

「文字の数」「文章の長さ」「書かれている内容」などを基に2つの文章を読み比べて、「みじかくて分かりやすい」「くわしくて分かりやすい」など、それぞれのよさを本文中の言葉を基に見付けている。 [ワークシートの記述]

十分満足できる状況 (A)

2つの文章を読み比べて、「みじかくて分かりやすい」「くわしくて分かりやすい」など、それぞれのよさを本文中の言葉を基に見付けている。

おおむね満足できる状況 (B)

2つの文章を読み比べて、「みじかくて読みやすい」「かんたんで分かりやすい」などカードの文章のよさを本文中の言葉を基に見付けている。

○Aに達していない児童への手立て

→文章で書かれたよさはないか声掛けをする。

○Bに達していない児童への手立て

→板書や「道具のひみつブック」を参考にするようにすすめる。